

令和6年10月31日

南の風 522

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の「理解してから理解される」の続きです

もし、こちらが相手を理解しようとせず、自分の主張ばかりぶつけていたら、相手は心を閉ざし、影響を受け取ろうとはしません。その結果、リーダーシップは相手に届かなくなってしまうのです。相手を理解することから、リーダーシップは始まります。自分が言いたいことを言うだけでなく、チームメイトを理解し、信頼関係を築き、そのうえでチームが向上するために必要なことをしっかりと伝える、それがリーダーシップです。

そして、そのリーダーシップをキャプテンだけではなくチーム全員が発揮することで相乗効果的なチームワークが生まれるのです。

次に「言いたいだけ」と「伝えたい」の違いについてです

「何度同じことを言っても選手がわかってくれない」とか「指示した通りに選手が動いてくれない」と思っているコーチは多いと思います。そういうコーチは選手に理解する能力がない、聞く耳を持っていないと思っているかもしれません。しかし選手がわかるように言う、伝わるように言うこともコーチの責任です。自分が言いたいことを言っているだけでは、お客さんが食べたいものを出さずに自分が作りたいものを作っている料理人のようなものです。

選手ができないのなら、できるように導くのがコーチです。この大前提を忘れて「なぜできない！」と言うだけになってしまったらコーチとしての成長が終わります。できないのなら工夫するのがコーチの役割です。選手を駒のように考えたり、「言う通りに動けばいい」と考えているのでは、選手はいつまでもコーチを理解するようにはならないでしょう。

伝えることが第一の目的だとわかっているコーチは、ただ言うだけでは意味がないことを知っています。選手に伝わって、さらに選手の行動が変わって初めて目標が達成できたと考えているのです。

チームとして成長するためにはお互いの考えをぶつけ合い、より良い方向へ向かうことが重要です。ただしこのときお互いが自分の正しいと思っていることをぶつけるだけでは相手には伝わりません。まず相手の話を聞いて理解します。そうすると自分の考えと違う部分がわかり、それが興味になるはずで、このとき相手には自分の話をよく聞いて理解しようとしているという姿勢が伝わります。自分の話を聞いてくれたのだから、今度は自分も一生懸命に聞いてみようと思うはずで、そのような関係を築くためには、まずお互いの「相手を理解しよう」という姿勢が大切なのです。

鈴木氏の言う「言いたいだけ」と「伝えたい」の違いは、我々コーチにとっては大切な提言と言えます。このことで私は次の言葉を思い出しました。

「やって見せ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ」

太平洋戦争連合艦隊司令長官 山本 五十六の言葉

次号では「話を聞く能力」について書きます